

# HOT話題

## シングルスとダブルス2冠達成 アジアユースジャパン選手権優勝

■10月5日～9日 千葉県千葉市



山岸市長に優勝報告をする山口さん

山口茜さん(勝山南中2年)が、見出しの大会のU-15(15歳以下の部)で国際大会初優勝を飾りました。しかも、シングルスとダブルスともに優勝という快挙でした。

山口さんは、福井国体に向けての「チーム福井」強化選手に指定されました。10月15日に福井県生涯学習館ユー・アイふくいで開催された認定証交付式では、全選手を代表して「誓いの言葉」を述べました。



### 災害時の要援護者受け入れを 福祉避難所設置運営協定

■10月4日 市役所

災害発生時に要援護者を受け入れ、運営してもらう協定を、勝山市と市内6施設(九頭竜厚生事業団、大日園、勝山幸寿会、勝山福祉会、サンビューかつやま、たけとう病院)が締結しました。

## 素晴らしい花壇で受賞 フラワーブラボーコンクール大賞に!

■9月30日 成器西小学校

児童・生徒が育てた花壇の出来栄を競う「フラワーブラボーコンクール」の秋季花壇審査において、成器西小学校の花壇が最優秀の大賞に選ばれました。

また、次点の勝山南部中学校が国土交通大臣賞に選ばれました。



成器西小学校の花壇「色づいたカエデ」



### 保存と有効活用を 第4回シシ垣サミット開催

■10月9日 教育会館

イノシシなどから田畑を守るため、江戸時代に構築されたシシ垣について考えるサミットが開催されました。

勝山市では、北谷町小原地区に存在します。



### 緑豊かな森を目指して 北陸電力が苗木植樹

■10月15日 雁が原スキー場ゲレンデ跡地

北陸電力と勝山市、福井県が連携し「企業の森づくり」として森の整備・管理協定を調印しました。その後に植樹活動が行われました。

## 歴史の散歩道 (133)

昭和四十七年まで成器女子校は中央公園と教育会館の位置にあり、校門を入った左側に「校舎建設記念の碑」が建っていた。この大きな碑は、現在、市民会館の後ろに見られる。

明治四十三年(一九一〇)二月十日午後零時四十分頃、校舎南館一棟が屋上に積もった雪の重みに耐えきれず倒壊した。これにより児童一人が死亡、十人が軽傷を負った。しかし、当時の勝山町は同二十九年(一八九六)の大火後で財政が逼迫しており、校舎の後片付けもままならぬ状況であった。

同年四月下旬、野村徳七は婦人と子供を連れて、亡母(元勝山藩士山内村右衛門の娘)多幾の故郷である勝山町に来ていた。その事情を知った徳七は、巨額の援助を申し出て莫大な建築費を負担し、南館校舎一棟と屋内体操場一棟を建てた。

### 野村徳七と成器女子校

#### 「校舎建設記念の碑」

りと、又曰く君天資仁慈、賞(財貨)鉅満を累ね、穫れば輒ち之を公共事業に投じ、毫も聲聞(名声)を求むるの心なし」と、徳七の母への孝と、その才能と人柄を述べ、「此校に入りする者、永く君の徳を懐ふて敬て譲る、なからんことを」と結んでいる。末尾は、同四十四年五月題字福井県知事正五位勲四等中村純九郎撰文(文をつくる)大野郡長正七位若杉喬である。

なお、徳七は同四十年の株式大暴落の中させて巨財をなし、野村財閥(戦後解体、現野村証券・りそな銀行・野村総研・東京生命等)の礎を築いた人物である。

資料「成器西小学校百二十年史」

「大野郡誌」

文化財保護委員 増田公輔



成器女子校「校舎建設記念の碑」

## こども図書



「ヒット商品研究所へようこそ!」

こうやま のりお/著 講談社

「ガリガリ君」「瞬足」「青い鳥文庫」。ヒット商品が生まれきっかけと、どんな工夫がされているのかを紹介。舞台裏とともに「遊び・大好き・夢中」を仕事にする大人たちの姿を伝える。

## おすすめ図書

### 中高生図書



「タバコとわたしたち」

大野 竜三/著 岩波書店

健康に悪いとわかっているタバコが、なぜ今でも多くの人に吸われているのか?若い時の喫煙は何が問題なのか?健康障害の実態とこれを防ぐにはどうしたらいいのか?を解説する。



「あつこと僕らが生きた夏」

有村 千裕/著 講談社

私が死んだら、グラウンドの空にいるから。大分県・楊志館高校の2年生で、野球部マネージャーだった「あつこ」。2008年夏、がんの治療をやめ、「最後の夏」を仲間と一緒に生きることを決断したノンフィクション。

## 一般図書



弔辞  
~劇的な人生を送る言葉~

文藝春秋/編 文藝春秋

わずかに数分に凝縮された万感の思い。故人との濃密な関係があったからこそ語られる、かけがえのない思い出、感謝の気持ち。作家、政治家、俳優、漫画家など、20世紀を彩った50人への名弔辞を収録。



「寄りそ医」

中村 伸一/著 メディアファクトリー

人口3000人の福井県名田庄地区で、ただ一人の医師として赴任。神の手はない。誇れる専門分野もない。大病院にも動めていない。しかし、地域の絆をベースにした「自宅で大往生」を可能にした20年間の感動ノンフィクション。